

## ◆今期間のポイント

## ＜主要じょう乱の概要＞

- 12日は、高気圧が日本の東へ移動し、日本海と本州南岸付近に低気圧が発生する。
- 13日は、低気圧が発達しながら日本の東に進み、高気圧が東シナ海へ移動する。
- 14日は、高気圧が日本の南へ移動し、日本海は気圧の谷となる。
- 15日は、気圧の谷が日本付近を通過し、次第に冬型の気圧配置となる。
- 16日は、日本付近は冬型の気圧配置が続く。

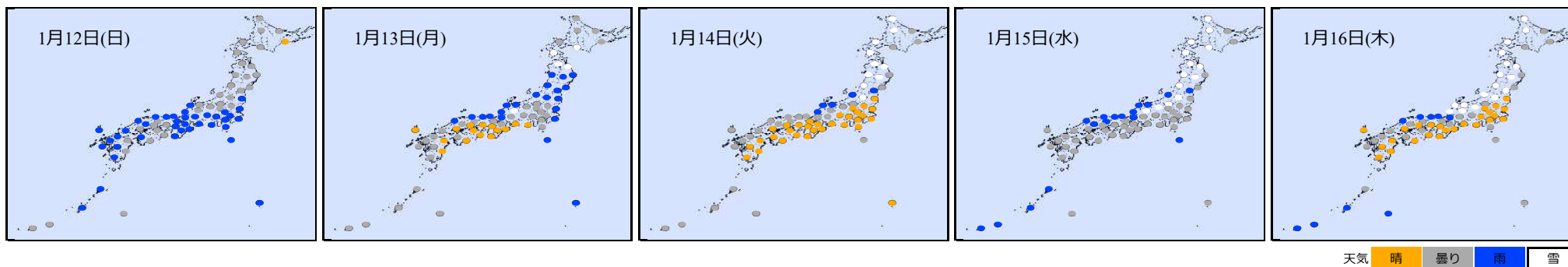
## ＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

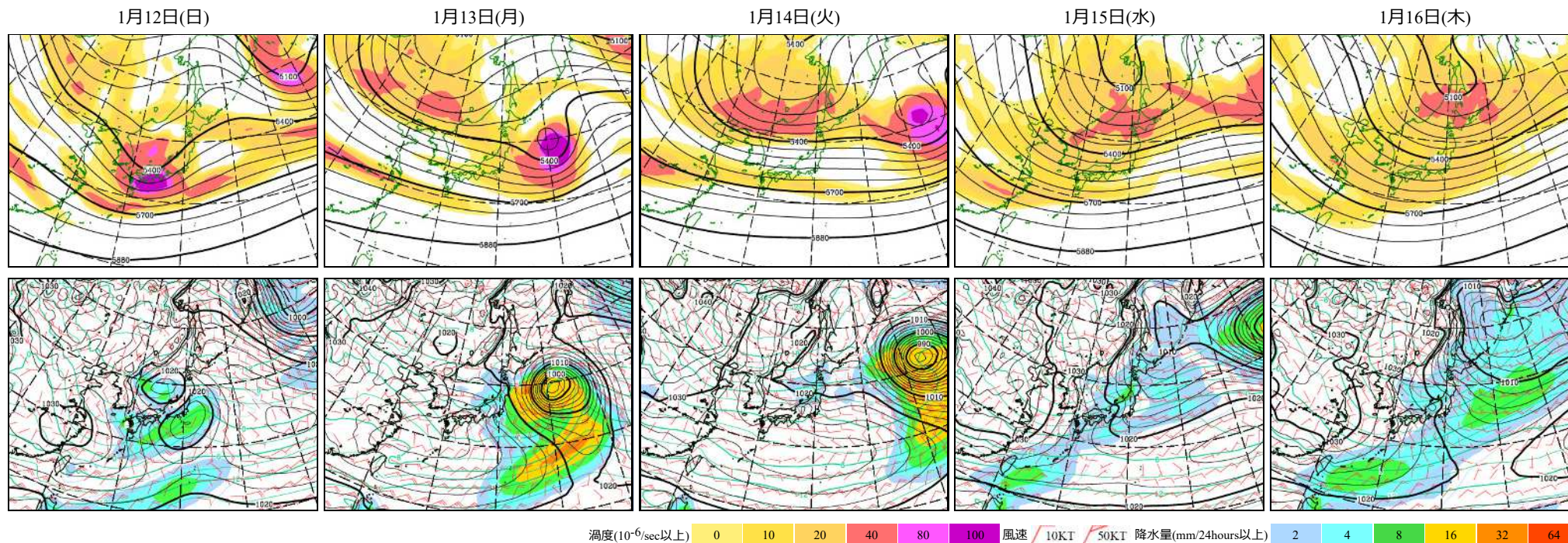
## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)



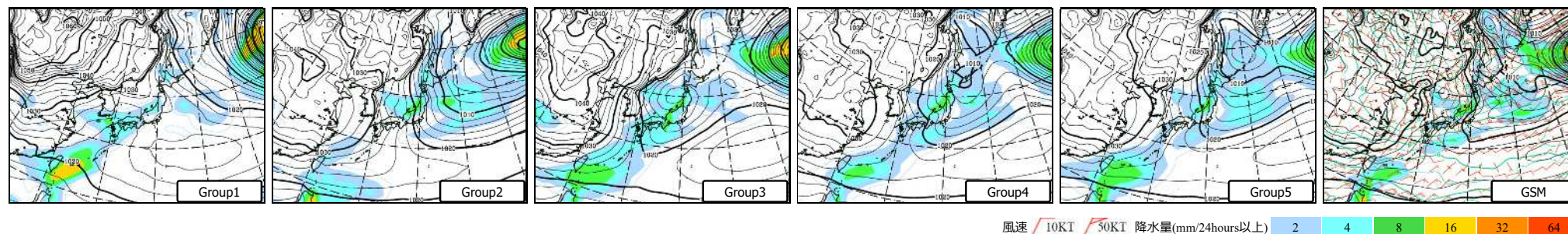
- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多いが、12日から13日は雨または雪の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。



◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月15日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、12日は日本付近のトラフが深くなり、本州南岸の低気圧が明瞭となった。降水確率ガイダンスの初期値変わりは小さい。
- 各モデルとも、12日は日本海と本州南岸を低気圧が東進し、13日は一時的に冬型の気圧配置となり、14日は日本海が気圧の谷となる予想は概ね揃っている。その後、15日から16日にかけての冬型の気圧配置の強まりの程度については、モデル間でばらつきが見られる。
- 期間の終わりはスプレッドが大きく、5400mの特定高度線のばらつきが大きいいため、日本付近の冬型の気圧配置の強まりの程度やタイミングについては不確実性が大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。